

ありのまゝ

和歌子

○夏の一日を相州鶴沼のさる人の家に暮す。近く江の島を前に扣へ、横手をふりかへれば富士の高嶺を仰ぐべきさうれしき地に、しかも無邪氣なる其家の孫女を友として濱風涼しき松林の中に遊び語り歌ふそのこゝちよさ。孫女呼んでヤーチャンと言ふ。四才なり。浪の音のゴ〜とさこゆるに紅塵万丈車馬の音のみ繁き都路をけさしも出で、來りしわれは、心も澄みてさく耳立て、「ヤーチャンアレハ何ノ音デセウ」と問へば、説明顔に「アノチアレハチー海ガヒトリデ言フノヨ」何ぞ其想の清く愛らしき。

○同じくヤーチャンの言ふ、「アタシ東京トクエヌマ(鶴沼)ト御家ドツサルアルノ、アナタ御家イク

ツ？」又「アタシ赤イノト黒塗ト下駄ガ三ツアルノ、アナタハ？」罪なき問にわれもいつしか子どもになりて笑ひ〜答へける夏の夕の涼しかりしよ。

○又或時ヤーチャン自家の庭園を案内してわれを導き池の邊に至りて、「コノ御池、アノ青蛙ガ飛ブノヨ」詩にも歌にも似たらんうつくしの詞、これは其單純無垢なるを喜びぬ。ヤーチャン今は可憐の幼稚園兒となり小さき口もて唱歌に話に、日々都の家居に父母の君を賑はせり。

○一夏を南海の一小村に過しつる或夕、午後海水浴に一日の苦熱を洗ひて食後大小の同勢四五人と濱邊に散歩す。月は今しも後なる山の端を出で前は海原浪静かなり。山、月、海、人、舟、浪いづれか畫ならざる。いづれか詩ならざる。琵琶好

の名此なこのいつせん一村いちつせんにかくれなき紺屋こんやの息子むすこ、月に面つきめんして得意とくいの琵琶びわ弾ひく、人七八ひと七八其前そのまへに立ちて聴きけり。おもしろき配合はいがふかなと數年すうねんを経へたる今いま、遠とほき都みやこに在りても、ありくと思おもひ出いださる。

○ことし二月がつ、青山あおやま幼稚園ちうじんえんを參觀さんかんす。場處ばしよ柄がらとして園兒えんじ中ちゆうに出征しゆつせい軍人ぐんじんの子こ女によ多おほくあり。此兒このこの父君ちよじきみは負傷おとけされたり、かの兒このは病氣びやうき後送ごそうなど聞きくに、あはれ可憐かれんの小ちひさ人ひと達父ちちちちなひととなるなど同情どうじやうに堪たへず。一兒ひとこ「アノネ、ウチノ阿母かあサマハネ、ヨソノラバサンガイラツシャルトネ、今ニ又追送またつせう品ヒンヲ送オツリマスカラツテ抑ルおさルノヨ」と聲調こゑてう入りにて我袖わがそでにまつはり語かたる。軍國ぐんこくの幼兒せうじ、平時へいじに知しられぬ事ことも詞ことばも覺おぼゆるかな。

○同じおなき園えんにて、一言いちげん一行いちかういさぎよく、と廣瀬中ひろせちゆう佐さの歌うたをうたふを聴きく。近ちかきはとりに其君そのきみの墓はかわ

り。其そのみたまは此無このむしん心しんなる幼兒せうじの歌うたを日毎ひごといかにきゝておはずぞ。旅順りよじゆん陷落かんらく見みもはてぬ恨うらみは深ふかし海うみよりも、となほも張はり上あげて歌うたふこゑく、わはれ其旅順そのりよじゆん落ちたりと、みたま生いかせて告つげまつりたや。

○開城かいじやう以來いらい軍人ぐんじんの青山あおやま墓はか地ちにとこしへに眠ねむらるゝ方かた々た數かずも知しられぬばかりなるに、皆みな今いま呼よび生いかせて、以後いごの戰況せんきやう知ちらせたと、墓はか地ちを行ゆきながらつれなる人ひとの語かたる。

○築地つぎち本願寺ほんがんじ内ないに京橋區きやうきやうく出征しゆつせい軍人ぐんじん幼兒せうじ保ほ育いく所じよといふがあり。温あたたかき人ひとの情なさけの露つゆに浴よせる撫なし子こ、わが見みたる時ときは二十餘名じゆじゆめい、いづれも其母そのははは晝間ひるま其子そのこを此所このこに預あづけ置おきては工場こうじやうなどに勞働らうどうに出いで、日々ひびの生計くらしを立たつるなり。其父そのちちは出いで、満州まんしゆうの野やに戰たたへるなり。阿父おとサンハ？、と問とへば、イクチャ

ニ行ツタノ、と答ふるあり、アツチ行ツタノと小
さき手もて指さすもあり。何も言はず只指し示す
もあり、わはれ指さるゝ其父なる人よ、幸に健
在なれ。生きて歸りて再び此子の頭を撫でよ。終
日を勞働してかひなくしくるすをされる妻に、勇
ましき戰語りして再び一家團樂の昔にかへれ。

○友の鵠沼に病を養へるを見まひてのかへるさ、
月影さやかに江の島は黒く静かに立てる瀕近道
を駄菓子屋の老婆と二人して歩む。けさしも新橋
に傷病兵を見、濠車中に戰争談を聞き、至る處
目に耳に、時局に關する印象を刻まれたるわれは、
ここにも亦此老いたる人の口より身にしむばか
りの實話を語りさかされぬ。

○ドーモ戦争は中々治マリマセンネ。早クスムト
ヨイゴザイマスガ。私ノ姉ノ處ノ二男も旅順デ戰

死イタシマシテネ。ソレハ〜オトナシノ者デユ
ク〜ハ、ソレ、サツキ御覽ニナリマシタ私ノ娘
アレヲメアハスツモリテ居リマシタノニ、ト
死ンデシマツタモノデスカラ姉モヒドクナゲ
キマシテネアナタ、アリモセヌ小遣錢ノ中カラア
マリ幾度モ寫眞ヲ寫シテハヨコシマスカラ、ソ
ナニ寫サナクテモト申シテヤリマシタガ、今ニナ
ツテ見ルト之ガシラセデゴザイマシタデセウ。

○問はず語りの老いたる婦人のなげき、さもある
べし。好箇小説の材料なり。否小説以上の眞事實
なり。敵國にも此國にも、之等もしくはは之以上の
悲劇は昨春來無數に演ぜられくりかへされつゝあ
るなり。あゝ軍國の裏面には慘なる事のひそめる
かな。